

第 1 回 館山市議会定例会会議録

(第 5 号)

1 平成5年3月16日(火曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 25名

1番 秋山 光章	2番 増田 基彦
3番 島田 保	4番 斉藤 実
5番 宮沢 治海	6番 植木 馨
7番 鈴木 順子	8番 永井 龍平
9番 脇田 安保	10番 庄司二三男
11番 山崎 雅己	12番 岩村 勝弘
13番 榎本 春光	14番 小宮 利夫
15番 山中金治郎	16番 鈴木 勝美
17番 鈴木 忠夫	18番 日下 君敏
19番 川名 正二	21番 神田 守隆
22番 福原 勤	25番 流山源次郎
26番 辻田 実	27番 横溝 功
28番 飯田 義男	

1 欠席議員 2名

20番 生稻 陞	23番 石井 昌治
----------	-----------

1 出席説明員

市長 庄司 厚	助 役 小幡 清之
収入役 川上 義雄	市長公室長 永野 修
総務部長 斉藤 賢司	民生部長 佐藤 澄雄
経済部長 小沼 晃	建設部長 伊東 衛
水道課長 鈴木 信一	教育委員会 高橋 博夫 教 育 長

1 出席事務局職員

事務局長 兵藤 恭一	事務局長補佐 土橋 康彦
書記 鈴木 哲	書記 鈴木 修一
書記 松浮 郁夏	

1 議事日程（第5号）

平成5年3月16日午前10時開議

日程第1	議案第1号	平成5年度館山市一般会計予算
	議案第2号	平成5年度館山市国民健康保険特別会計予算
	議案第3号	平成5年度館山市老人保健特別会計予算
	議案第4号	平成5年度館山市ユースホステル特別会計予算
	議案第5号	平成5年度館山市学童災害共済事業特別会計予算
	議案第6号	平成5年度館山市下水道事業特別会計予算
	議案第7号	平成5年度館山市水道事業特別会計予算
	議案第8号	平成5年度館山市国民宿舎事業特別会計予算

開 議 午前10時02分

◎議長（福原 勤君） 本日の出席議員数25名、これより第1回市議会定例会第5日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第1、議案第1号乃至議案第8号、平成5年度一般会計及び各特別会計予算を一括して議題といたします。

質疑応答

◎議長（福原 勤君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

なお、発言の際はページをお示しくくださるようお願いいたします。

8番議員永井龍平君。御登壇願います。

（8番議員永井龍平君登壇）

◎8番（永井龍平君） おはようございます。

私は、議案第1号、土木費、橋梁整備事業、予算説明資料16ページにあります相生橋のかけかえ事業についての1点だけ、確認と要望の意味で質問を

いたします。

地域住民、学童等の通行利用者の長年の念願でありました相生橋のかけかえ工事が昨年11月より施工され、本年の8月31日までの工期で完成することになりました。この事業につきましては、県の補助金、用地取得の問題等で5年余りの年月がかかりましたが、市関係課の御努力でその実現が——現在下部工の完成を見ることになりました。ありがとうございました。引き続き来年度には上部工事にかかり、その完成を待つばかりでございますが、ここで現時点の問題がございます。当局におかれましては既に御承知のこととは存じますが、この相生橋のかけかえ工事の車両通行どめによる交通渋滞が県道館山—白浜線ほか付近の市道にも影響を及ぼし、市民が大変不便を感じており、困っております。これほどの影響があることは、いかに相生橋が市民に利用されているかの証左であり、その重要性を改めて認識をいたしました。

この車の渋滞は、朝夕ラッシュ時と日曜日の夕方などは0.5キロメートルから1キロメートル、つまり下町交差点を起点として、少ないときには相生橋までの0.5キロ、多いときには火葬場までの1キロメートルまで渋滞をしております。これから迎える春の観光シーズン、初夏のゴールデンウィーク、サマーシーズンの海水浴客などの交通量の増加は必至でありましょう。この影響を受ける地元商店、地域住民は、何とかこの相生橋の早期完成をこいねがっているのが実情でございます。

そこでお尋ねをいたしますが、この事業は2カ年度事業であります。単年度事業であれば工事期間もある程度短縮できたと考えますが、2カ年度事業とした理由はなぜか、御説明をいただきたいと思えます。

また、来年度の上部工事の日程はどうなりますか、そしてその完成時期を少しでも短縮できないものかどうか、お尋ねをいたします。

以上でございますが、御答弁により再質問をさせていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの永井議員の御質問にお答えいたします。

土木費の橋梁整備事業、相生橋かけかえ事業についてでございます。現在かけかえ中の相生橋につきましては、災害防止のため雨季を避け、下部工事を実施すること及び県補助金の関係によりまして2カ年度事業といたしました。平成5年度の工事につきましては8月末を完成予定としておりますが、早期に発注しまして、一日も早い完成に努めたいと考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 永井龍平君。

◎8番（永井龍平君） 再質問をさせていただきます。

まず、御答弁によりますと、災害防止のために雨季を避ける、これは理解いたしました。が、県の補助金の関係で2カ年事業にしたとお聞きいたしましたが、なっておりますが、この補助金は2カ年度と単年度とした場合どう違うのか、具体的にまず教えていただきたいと思います。

それとまた、来年度のこの補助金に関連して、この日程のおくれ等は、支障はないものかどうか、お伺いいたします。

そして、私は質問で工事の日程はどうか、このようにお聞きしましたが、御答弁では早期に発注しとありましたけれども、この発注を一日でも早くすることがこの工期短縮に大きく影響するものと考えます。この工事関係者に聞くとところによりますと、この完成の早い遅いは橋げたの発注、完成次第と言っておりました。したがって、この発注を一日でも早くしていただきたい、このように思いますけれども、この点いかがでございましょう。

4点目に、この橋の構造並びに橋上の道路面の仕様は、長さ17.5メートル、幅が8.5メートルのコンクリート構造で、橋上面は2メートルの歩道をつける、このようになっておりますけれども、このとおりに進められておるのかどうか、お伺いいたします。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） お答えします。

まず、県の補助金でございますけれども、単年度と2年度ということの比較でございますけれども、まず単年度の場合、これが10分の4以内ということで一応なっておるわけでございます。そうしますと、普通ならば補助金が

1,200万ですから、2,400万はもらえるであろうということでございますけれども、実は県では1つの予算を取っております。聞きましたところ、4年度については10億円の予算があるそうです。それを――本年度の場合には112件の件数があったそうです。割り返しますと、大体1件当たり900万ということになってしまうわけですが、そんなことで、10分の4ではあるけれども、この予算の中で消化いたしますので、単年度の場合には10分の4もらえるかということは非常に疑問であるし、非常に困難だということの中で2年度に分けたわけでございます。

それから、橋げたを発注することができないかということでございますけれども、あくまでも工事の請負業者が発注いたしますので、この点については無理だということでございます。

それから、発注でございますけれども、平成5年度の発注については4月の頭で出そうという考えでおります。早着ということなんですけれども、これについては県と協議して、早く出してもいいよという早着協議があるので、これで出そうということでございます。そうしますと、これ内部のことでございますけれども、指名審査会があったり入札がありますと、1カ月ぐらいは伸びるかなということでございます。

それから、8月末というふうにお答えしておりますけれども、これも地元のところからいろいろ要望がありまして、何とか7月末までには終わらせたい考えを持っておりますけれども、これ祭礼等の関係でございますけれども、とはいうものの、何としてもこれ――天候との関係でございますけれども、我々とすれば、7月末には終わらせたいという考えを持っております。

それから、構造については、永井議員さんがおっしゃったとおりのもので考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 永井龍平君。

◎8番（永井龍平君） 大体了解いたしました。

補助金の件につきましても、単年度では思うような予算が間々するととれないために2カ年事業にした、こういうことです。

それと、発注のことですけれども、4月の頭——早くしていただく。そして、工事の完成も1カ月早くしたい、そのように進めていく、こういってくださいますので、どうかそのような日程で、よく指導しながら早期完成をしていただきたい、このように思うわけでございます。

次に、相生橋に関連してお尋ねいたしますが、私平成3年3月議会で、この相生橋に接続する市道1045号線でございますが、相生橋から左へ折れて長須賀へ行く汐入川の川沿いの市道でございますが、この1045号線の拡幅整備について強い要望をいたしました。そのときの御答弁で、長須賀寄りの排水路の整備、ふたかけの整備とか、そういったものを現在早速していただきまして、広がって使用しておりますけれども、あとその先、相生橋までが大変狭くて、相生橋が8.5メートルの幅になりまして、相当また交通量もふえると思われます。そのときの市長さんの御答弁については、河川につきましては県と協議をし、少しでも広く幅員のとれるように努めたい。そして、道路改良については、できれば相生橋のかけかえ工事が完了するまでに実施したい、このような御答弁をいただきました。この道路につきましては、現在用地取得あるいは河川利用等どのように進められておりますかどうか、お尋ねをいたします。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） お答えします。

1045号線でございますけれども、これは相生橋から北へ走る長須賀のところの通りでございますけれども、家屋については非常に密集しておる。あいているところは河川敷だということで、実はとりあえず側溝工事をして、その最低限の道路幅を確保したわけでございますけれども、現在東側の方の用地がある程度空き地がございます。あいているところがございます。家屋のないところがございます。これについては、今用地交渉をしておる段階でございます。それから、河川敷については、これは館山土木がその管理者で、河川管理者であるわけでございますけれども、これについての下協議をしたわけでございますけれども、そういたしますと、これが河川断面を狭めることとなるので、非常に困難性が高いということで、完全にだめだよと言っ

ておりませんけれども、非常に難しいよということをおかれておるわけでございますけれども、とはいっても、そこについては非常に狭いので、今後その方法等を考えていきたいと思ひます。

御質問にないことでございますけれども、実は館白バイパスが完成して川名一大賀線ができ上がりますと、ここの道路も今のようない状態よりはだいぶ少なくなる、問題が解決されるのではないかと思ひますけれども、それは別として、この用地交渉をこれからも引き続き進めたいと思ひます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 以上で8番議員永井龍平君の質疑を終わります。

次、21番議員神田守隆君。御登壇願ひます。

（21番議員神田守隆君登壇）

◎21番（神田守隆君） 平成5年度当初予算案、議案第1号についてお尋ねをいたします。私の質問は予算書の事項別明細書に沿って行ってまいります。

まず第1点は、49ページをお開きいただきたいと思います。文書広報費に関してであります。昨年の9月市議会で館山市は平和都市宣言を行いました。憲法の平和主義の理念をうたった立派な平和都市宣言であります。新年度の予算編成に当たって、この宣言の趣旨を市民の多くの方に伝える広報活動は大変重要なテーマになっているものと思ひます。

そこでお尋ねをいたしますが、平和都市宣言に係る市民への周知事業について、新年度予算案ではどのようなになっているのか、その内容について具体的に御説明をお願いしたいと思ひます。

次に、79ページであります。老人福祉費についてお尋ねをいたします。新年度は老人保健福祉計画の策定年度であります。アンケート調査も先日行われましたが、その結果の集計はこれからのことと思ひます。それらの事情は事情としてよくわかるわけですが、同時に先日の新聞報道では、鋸南町が新年度の事業としてひとり暮らし老人世帯への給食サービスを行うことが、新年度に予算化したとのが報道されておりました。これは生活援護型の給食サービスとしては千葉県内市町村としては初めてのことであります。

私はこれまでもこの給食サービスについては、全国各地の先進的な事例をお示しして、この館山市でも実施を検討するようたびたび質問でも取り上げてまいりましたが、鋸南町に1歩先を越されることになってしまったわけであります。

この事業の特徴は、国の、あるいは県の補助制度があるために、余り財源がなくても市町村において実施できるという点であります。館山市はひとり暮らしや老人世帯の割合の大変高い市となっております。それだけにこの制度の実施を急ぐ必要があると思うのでありますが、市としてこのお年寄り世帯への給食サービスについてどのように考えておられるのか、この際お尋ねしたいと思います。

次に、81ページであります。老人福祉医療費に関してお尋ねをいたします。現在全国22の都道府県で老人医療費への助成が行われ、例えば東京では65歳から、また埼玉では68歳から老人医療費が無料になっております。しかし、千葉県ではこれらの助成が行われていません。このため、船橋、千葉、浦安など、市町村単独で実施しているところもあります。この県南地域は高齢化が進んだ地域となっているために、これらの事業を市町村の単独事業として実施するには膨大な財源を必要といたします。残念ながら財政力も弱いのが実態であります。

そこで、こうした事業は他の都道府県同様に県の事業として実施を求めることが必要ではないかと思うのであります。県南地域の中心都市として、その館山市の姿勢は重要な意味を持つことになると思うのであります。県に対して65歳以上の医療費の無料化を県事業として実施を求めるというお考えはないのかどうか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、107ページであります。農業費中の農地費についてお尋ねをいたします。108ページに負担金として県営ほ場整備事業負担金として983万5,000円が計上され、また安房土地改良区には200万円の補助金が支出計上されております。これらに関連してお尋ねをいたす次第であります。

丸山町にある安房中央ダムの集水区域に嶺岡カントリーというゴルフ場計画が進んでいます。このゴルフ場ができると、安房中央ダムの機能が損なわ

れる心配があると思うのでありますが、いかがでありますでしょうか。

そこで、まずこの安房中央ダムの館山農業に占める役割を明らかにするために、次の点をお尋ねをいたします。安房中央ダムによる受益農地は丸山町、和田町、三芳村に広がっておりますが、最大の受益農地を持つのは館山市であります。安房中央ダムの7割は館山市と言われておりますが、この安房中央ダムの受益面積のうち、館山市の割合はどのくらいになりますか。また、その受益面積は市内の農地のうちどれくらいの割合になるのか、それぞれ具体的にお答えをいただきたいと思います。

この予算案で債務負担行為分の返済金として約1,000万円が支出計上されておるわけでありましたが、この中央ダムに関して、ダムそのものでも、またこれに伴う基盤整備でも、市財政から農業振興として莫大な支出をしてきたものと思うのでありますが、それはどれくらいになるのでありますでしょうか、お示しいただきたいと思います。

館山市農業の死命を制するとも言える重要な位置と役割を担っているのがこの安房中央ダムだと思うのでありますが、このゴルフ場予定地は大変脆弱な地盤であり、急峻ながけになっております。しかも、企業の計画書によれば、盛り土、切り土等の土石の移動量はともに約840万立方メートルという膨大な量であります。安房中央ダムの最大貯水量は211万トンでありますから、容積で表現すれば211万立方メートルであります。実にダム貯水容積の4倍以上の盛り土がそのすぐ上流部で計画されているのであります。造成地の一部が崩壊しただけでダムは埋まってしまうことになります。もともと軟弱な地盤で、急峻ながけ地であります。植林などをして、自然との微妙なバランスの上で成り立っていたところでありますから、ゴルフ場造成の結果、鉄砲水などの災害を誘発することが懸念されます。このゴルフ場開発がダムの機能を低下させることにならないのかどうか、その影響を市として調査するお考えがあるかどうか、お聞かせをいただきたいと思いますのであります。

次に、143ページであります。中学校費に関してお尋ねをいたします。いわゆる免許外教員の実態についてお尋ねをいたします。中学校は教科担任制をとっているのに、例えば社会科の免許を持っている先生が実際は免許外の

国語の授業を持っているということがあるということを聞き、大変驚いています。教える先生も大変でありましょうが、教わる方の子供も気の毒であります。こうした免許外教員が千葉県は大変多い県だということでもあります。他県に比べて教員の数に余裕がないことが原因ではないかと思うのであります。

そこで、こうしたことは市内の中学校にはないのかどうか、あるとすればその状況はどの程度なのか、さらにまたその解消策についてどのような対策をとられるのか、御説明をいただきたいと思います。

次に、149ページであります。社会教育費についてお尋ねをいたします。館山湾のサンゴの保護対策について、これまでもたびたび市の姿勢をお尋ねしてまいりました。昨年環境庁が沖ノ島のサンゴの存在を確認して以降、館山湾のサンゴが各界から大変注目を浴び、その結果、マスコミなどからたびたび取り上げられるようになってまいりました。1月15日号のアサヒグラフは館山湾のサンゴをカラー写真におさめて掲載していますが、その写真のサンゴは大変美しく、感動的であります。また、2月15日の東京新聞では、大変大きく館山湾のサンゴについての紹介を記事にしておりました。館山湾には美しいサンゴがあるということが多くの人の認識になろうとしています。それだけに、その保全、保護について真剣な努力が求められることになろうかと思うのであります。この館山湾のサンゴの保護についてどのように検討されているのか、御説明をいただきたいと思います。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1の平和都市宣言にかかわる市民への周知事業についての御質問でございますが、昨年の9月議会におきまして採択されました平和都市宣言、この宣言文を多くの市民が集まる公共施設等へ掲出しまして、市民意識の高揚とあわせ、平和のとうとさを再認識していただくための啓発事業を実施してまいりたいと考えております。

次に、大きな第2、お年寄りの給食サービス事業についての御質問でございますが、現在社会福祉協議会で月2回ふれあい型の給食サービスが実施されております。生活援助型の給食サービスにつきましては、高齢者ニーズ調査、この結果を踏まえ、在宅福祉サービスの一環として検討してまいりたいと考えております。

次に、大きな第3、老人医療開始年齢の引き下げを県事業として実施を求めているかどうかの御質問でございますが、昨年御質問の趣旨の陳情が千葉県議会に提出されておりますが、老人保健法の趣旨に沿った年齢としてとらえているとして不採択となっておりますのが実情でございます。

次に、大きな第4、農地費についての御質問でございますが、安房中央ダムに係る館山市の受益面積は全体の約7割を占めており、これは館山市水田の約6割でございます。この開発計画は丸山町を通じ県に申請中と聞いております。また、安房中央土地改良区から開発業者に対しましてダム機能の低下がないよう要望していると伺っております。

大きな第5、中学校費について及び大きな第6、館山湾のサンゴの保護対策について、これは教育長より答弁申し上げます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 高橋教育長。

（教育長高橋博夫君登壇）

◎教育長（高橋博夫君） 2点につきましてお答えいたします。

まず、大きな第5、中学校費にかかわる免許外教科教員の状況とその対策についての御質問でございますが、館山市における中学校免許外担当教員は19名で、そのほとんどは美術、技術、家庭科担当でございます。館山市教育委員会といたしましては、安房地方市町村教育長協議会及び千葉県都市教育長協議会等を通じて国や県に中学校免許外担当者の解消を要望しております。

次に、大きな第6、館山湾生息サンゴの調査を早急に行うべきではないかどうかの御質問でございますが、この件につきましては、千葉県教育委員会におきまして学術的に価値があるかどうか、近いうちに地元の協力を得てその実態調査を行うと伺っておりますので、館山市教育委員会といたしましても県

と連絡をとりながら対処してまいりたいと考えております。

以上。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） まず、平和都市宣言の関係でありますけれども、公共施設に宣言文を掲出して市民への周知を図りたいということでもありますけれども、実際にこの宣言の文章がよく目につくようにしなけりゃいけないかと思うんですけれども、何方所、どういうところに — 具体的に御説明をいただきたいなと思います。

それと、この平和都市宣言に伴っていろいろと — まず市民への周知ということが私も当然必要だろうと思うんですけれども、この平和事業として、市としてどのようなことを検討したのか、その辺のお考えをお聞かせいただきたいと思うんです。周知事業としては、よく平和のシンボルとして何か彫刻をつくるだとか、あるいは平和宣言をしたということをより端的にあらわすために、塔とか垂れ幕ですとか、わかりやすい形のものを設置するとかという市も全国回りますと大変多いわけであります。そうしたことは検討なされなかったのか。

私はお隣で — 川崎という地区がございますけれども、ここの地区の皆さんは、ちょうど館山市内で空襲を受けたということで、28名の方が亡くなったということで、毎年その慰霊のための集会を開いて、そしてこうした人、亡くなった方の名前を全部碑に刻んで、こうした戦争の思いというものを後世に伝えなけりゃならないという努力をしているんです。大変敬服することだろうと思うんです。

私どもは憲法の平和の理念ということを尊重して、もう二度と戦争をしないんだという、こうしたことはともすれば風化しがちなことでありますけれども、今こうしたことをきちんと後世に伝えていくという事業をしないと、本当に風化してしまうという、こういうことを感じるんです。そういうことから、こうした平和のシンボルとか、こうしたものをいろんな形で市民の中に周知をしていったり、いろいろなものを残していくということが市の事業としても大事だと思うんです。そういう点で、どのようなことを検討された

経過があるかということについての御説明をいただきたいと思います。

それから、次に給食サービスについてであります。県内80市町村の中で鋸南町が実施をするということで、大変私も注目をして、鋸南町には我が党の議員もいるものですから、連絡もとって、どういういきさつなんだということもお話を伺いましたけれども、端的に言って、担当部署が非常にやる気だ、ぜひやりたいという意欲が非常に強いということが大きな要因だということを書いておられたことと、それから非常に財政的にお金がない中で、財源がほとんどかからないということが踏み切れた大きな要因の中で重要なポイントだということで、国からの補助、県からの補助を含めると、実際に町の持ち出し財源は非常に少ないということだったんです。ですから、この問題はまだまだ解決すべき問題が、初めてやることです。鋸南町もたくさんあるようであります。しかし、そうした中でこの事業の実施に踏み切ったということで、大変重要な意味があるんじゃないか。

安房郡の中でも財源の問題というのはどこでも抱えていますから、そういう問題はそう大きな障害にならないということのようですから、県内30ある市の中で館山市が市としては第1番目にこういう事業に踏み切れるということを書いて期待をしたいと思うんです。この問題については、高齢者ニーズ調査を検討するということでもありますから、そうした中でぜひ前向きな検討をお願いをしておきたいと思います。

それから、丸山の中央ダムの話でありますけれども、御答弁によりますと、中央ダムの受益面積の7割が館山だ、館山の中の農地に占めるこの受益面積は6割だということでもありますから、大変なことであって、いわば安房中央ダムのほとんどは館山のためにあるようなもので、そしてまた館山の農業にとって死活的に重要な役割を持っている。このダムからの給水がもし滞るような事態になれば、館山市農業にとっては非常に決定的な意味を持つような、こうした役割と位置にあるということだろうと思うんです。

そこで、私はこのダムの上流部分で、先ほどもお話しいたしましたけれども、840万からの切り土及び盛り土で谷を埋めるわけです。こういう膨大な量の土石の移動がある。この840万というのはこのダムの容積の約4倍とい

うことですから、そのダムの上流部のすぐそばにそういうものを、こういう大きな工事を行うということは、本当にその一部が崩壊というようなことになってもダムの機能を損なうという — 大変心配なことだ、だれもがそう考えるところだと思うんです。いろんな計画書を見れば、それは安全にやりますとは書いてありますけれども、事故というのはそうしたものを、予測を超えて事故があるわけでありまして、そしてもしそういう事故が起きた場合に、この会社がそれを復元をします、すべて補償をできますというだけの十分な担保力があるのかどうか。担保力がなければ、自然災害だということで済まされる懸念もあるわけです。全く補償はされない。結局そうなると、館山市の農業は先行きできなくなってしまう、立ち行かなくなるという問題を持っておると思うんです。

そういうことで、この事故に対する事前の詰めというものが当然なけりゃならない。そういうものがきちんとされているのかどうか。市としては重大な関心を持って調査をしなきゃいけないんじゃないか。また、そういう懸念に対しては、この農民に対して、市内の農民に対してすべて明らかにしていく、こういう責任が市にあるんじゃないか。この辺はいかがお考えか。

それから、この工事に当たっては、これだけの膨大な土石の移動ということになりますと、工事期間も3年間あるわけです。この間に大雨でも降れば、鉄砲水が出ることも十分考えなきゃいけないわけですが、よく地盤凝固剤が使われるということも懸念されるわけです。これが使われますと、それがこのダムに流出しますと、非常に毒性が強いという問題があるわけです。こうした地盤凝固剤は一切使わずに工事をやるというようなことははっきりさせる必要があるんじゃないか。だとすると、これだけの工事というのは私は実際には不可能なんじゃないかなということも感じるわけなんですけれども、その辺はどういうふうにお考えになるか。

それから、次に中学校の免許外教員の実態でありますけれども、市内で19名もの免許外ということで、これは大変なことだと思うんです。技術や美術や家庭科の授業だからいいというふうにととても言えるわけじゃなくて、館山だけで19名もいる。特に、美術とか、こうした科目というのは非常に — 芸

術のものというのは、先生のセンスといいますか、こういうものによって子供の才能が開く場合もあるし、それがないとなかなかうまくいかないというような面で、非常に難しい面もあろうかと思うんです。それで、こうしたところで技術、美術、家庭科という、こういう科目ならばやむを得ないんだという考え方はどうかなと思うんですが、どうしてこういう科目ならば——免許外ですから、免許のない人。無免許運転ということは自動車では絶対できないことなんですけれども、学校では無免許は平気なんですかということになるわけです。技術や美術や家庭科なら無免許でもいいんだという、こういう考え方はちょっと納得できないんですけれども、いかがですか。

これの解消の見込みというのは、具体的に県に申し入れをするということでもありますけれども、どういう見通しを持っておられるのか。

館山、この房州は日本の美術界の上では大変重要な役割を果たしているところなんです。そういうところでこういう軽視があるというのは大変残念なことだと思うんです。いかがでしょうか。

それから、サンゴの問題でありますけれども、県教委として実態調査をするということでもあります。そこで、この実態調査の範囲というのはどういふふうに考えられておるか。というのは、その後新聞で報道されたりしているものを読みますと、館山湾に限らず、富津の沖までかなり一抱えもあるようなサンゴが出てきたとか、かなり広範囲にサンゴがあるような報道もされるようになってまいりました。この県教委の実態調査の対象とされているのは沖ノ島周辺のことなのか、あるいはもっと広い地域、館山湾全体とか、あるいは富津の方も含めて、南房総の海域全体ということで考えられているのか、その辺はどうなのか、お聞かせをいただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（永野 修君） 平和都市宣言に関する事業でございますけれども、市といたしましては、市民のいわゆる平和意識の定着を図るために、いわゆる普段から目の届くところといいますか、そういうところにおきまして自然に平和意識が入るような、そういう観点から宣言文の掲出を今回予定したわけでございますが、場所につきましては、市の庁舎を初めといたしま

して、図書館、博物館、コミュニティセンターとか市民センター、あるいは公民館、15カ所程度を予定をいたしております。

さらに、今後の事業というか、いわゆる検討した事業でございますけれども、御指摘いただきましたように、シンボルといいますか、そういうものも検討いたしましたし、また横断幕、さらには映画のフィルムだとかVTRの貸し出しだとか、いろいろあるようでございますので、今後その効果を見きわめながら選択し、それぞれ採択いたしまして平和意識のアピールを市民にしていきたいと思います、このように考えております。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 安房中央ダムの御質問にお答えいたします。

安房中央ダムは市の水田農業に大変大きな影響力を持っているわけでございます。これは御指摘のとおりでございます。このダムが開発によりましてダム機能が損なわれるということは、これはあってはならないことだと考えております。安房中央土地改良区でも、ダム機能の確保というようなことから、次のような対策の申し入れがなされているというふうに伺っております。これは主なものでございますけれども、まず1つといたしましては、農業、肥料等による水質汚濁の防止。2つ目といたしましては、工事の着手前、完了後、ダム内へ土砂の流入がないような施設をつくること。3つ目といたしましては、用水不足、洪水の危険のないよう調整池を設けること。細かいこともほかにあるようでございますが、主といたしましてこういうようなものの申し入れがなされているということでございます。

市として調査等をする考えはないかという御質問でございますけれども、安房中央土地改良区とも連携をとりながら、必要に応じて対応をしていきたいと思います、このように考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 高橋教育長。

◎教育長（高橋博夫君） 免許外並びにサンゴの件について御質問がございましたので、お答えいたします。

まず、免許外でございますけれども、私どもといたしましては、現状とい

たしまして、教員配当というやむを得ざるところがございます。定数でございますので、どうしても現状のようなことが出ておる状況でございます、各学校におきまして、それぞれの学校の教師の中に特性を生かしていただいて、そういう指導の方に当たっていただいております。

なお、無免許というお話がございましたけれども、現在中学校の教員の免許状を保持し、かつまたその教科につきましては、臨時免許状を取得いたしまして現在指導をしているところでございます。

次に、それらの事柄に対しましては、教師の研修がやはり大切でございますので、県及び南総教育センター等の講座等に出席をいたしまして、技術並びにそれらの力量を磨いていただくようにするし、または安房郡市におきます技術センターの講座もございますので、そのところでもさらに研修を積んでいただくというようなことを実施しておる状態でございます。

次に、サンゴの件でございますけれども、南総全体についての調査はどうかということでございますけれども、この点につきましては、県の方からまだ指示等を聞いておりませんで、とりあえず館山市といたしましてはそのような状況をいたすというところでございまして、その範疇ということは現在といたしましてはわからないところでございまして、今後それらにつきましては、また聞く段階においてそれが広がっていくのではないかというふうに思われる点でございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 中央ダムの関係でありますけれども、一番懸念されるのはやはり鉄砲水などの災害です。とにかく工事が膨大なわけです。ダムのすぐ上流部分で840万というような大規模な造成でありますから、そのほんの一部が崩壊しただけでもダムそのものが埋まってしまうという規模でありますから、非常にこれが心配される。

その際に、設計書なんかを読むと、100年に1度の雨を想定してとかと書いてありますけれども、しかしかなりの雨が降って地盤が流れてしまった、あるいは地震があって地盤が流れてしまったというようなことの場合、そも

そもそういう工事が行われなかったならば、これはそういう事故は起きなかったんだ。だとすれば、これは人災になるわけです。天災じゃないわけです。この人災か天災かという判断は非常に難しい問題を含んでいると思うんです。膨大な被害が出た場合に、その賠償問題ということになった場合に、これは人災だとなれば、当然賠償責任を負うのは当たり前なわけです。しかし、そのことが人災であるということを立証することは極めて難しい問題をたくさん持っているかと思うんです。

そういう点では、きちんとしたやはり事前の協議がどうされるのかということも考えなきゃいけないし、そしてまたそうした災害が起きた場合に、これが人災だとすれば、ちゃんとその賠償を担保できるということをはっきりさせておかなきゃいけないだろうと思うんです。端的に言って、この会社が、香木原カントリーという会社がそれだけの担保責任がとれるだけの資金力がある会社だというふうには到底見られないんです。この被害の大きさという、想定される被害の大きさから考えると、とてもじゃないけれども、被害が出てしまえば会社は解散、あとは泣き寝入り、これは最悪のシナリオです。そういうことについての論議がちゃんとされているのかどうかというのは大変心配なわけです。その辺は先ほどの御答弁の中では触れられてなかったんですけれども、どうなのか。

そしてまた、場合によっては、この会社自体に対して——受益者はほとんど館山の農民なんですから、館山市としてもこの会社に対して、こういう心配があるんだけど、こういう問題についてはどうなんだということを市がやはり直接聞いていくというようなことも必要な場面があるんじゃないかなと思うんですけれども、その辺についてはどういうふうにお考えになっているか。

さらに、先ほど水質の汚濁の問題で農薬等の話がありましたけれども、意外に盲点になっているのが地盤凝固剤なんです。余り論議されずにいってしまいうんですけれども、この地盤凝固剤は極めて毒性が強いものですから、これが使われるとすれば、非常に心配なんです。そうしたことはちゃんと論議されておったのかどうか、こういったことです。一応水質汚濁という一般的

な議論の中で、農業の問題なんかはこれまでも大分論議されてはいるよう
ありますけれども、当然業者はこれを使わなきゃ工事できないというふう
な、そういう思惑で考えているんじゃないかなというふうに懸念されるん
です。前提とされているんじゃないかなと思うんですが、そういうことが心配
なものですから、あえてその辺を明らかにしていく必要があるんじゃないか
と思うんですけれども、その辺いかがでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 答えいたします。

工事を行うに際しましてのいろんな影響、そういうようなものにつしまし
ては、現在このゴルフ場開発につきましては、県の宅地課の方に書類が上が
って申請がなされている。この後、県の各関係部門で工事に伴いますそうい
ういろんな影響とか対応とか、そういうようなものが議論をされていくとい
うふうに私ども考えております。今御指摘いただいたそういうようなケース
につきましても、当然そこでいろいろな議論、調整というものが出てくるの
ではないかなというふうに考えております。

それから、受益は館山市が大半だというようなことの中で、市が受益者の
人たちに説明をというようにお話でございましたんですが、このダムの管理
は安房中央土地改良区が管理をいたしておるわけでございます。改良区の方
と協議をしながら、必要があればそういうような方法も考えてまいりたい、
このように考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 以上で21番議員神田守隆君の質疑を終わります。

次、26番議員辻田 実君。御登壇願います。

（26番議員辻田 実君登壇）

◎26番（辻田 実君） それでは、通告をいたした順に御質問を申し上げ
たいと思いますので、よろしくお願いいたします。

まず最初に、25ページでございます。ここで、25ページ、2目の法人市民
税の減額、それからその下の固定資産税の増額、そして26ページにまいりま
して、1目都市計画税の増額についてまず最初に御質問を申し上げます。

法人税につきましては、バブルの崩壊によりまして、非常に企業の不振、法人の不振が続いているわけでございますので、こうした結果が出てくるのは当然でございますけれども、今回 5,200 万の減があったわけでございます。この減になった主な特徴点がございましたら教えていただきたいと思います。

それから 2 番目に、固定資産税が 6,500 万円増額になっているわけでございます。この点について、私はこの固定資産税の仕組みと市の対応についてお伺いしたいわけでございますけれども、御案内のように今日非常に地価が低下しております。館山も相当低下しました。具体的に申し上げますと、ごく至近な例でございますけれども、今回館山市が取得した駅前の用地につきましては、3～4 年前の提示でございますと、今回取得する倍以上の価格が提示されておったわけでございますけれども、半額で買えるというような状況になってきております。以下、いろいろと伺いますと、ほとんど 3～4 年前から半分近くまで下がってきているというような状況が今醸し出されている、こういう面がうかがわれるわけでございますけれども、そうなりますと、固定資産価値は市民の感覚としては非常に下がっているわけでございますから、固定資産税も下げてもらわなきゃ困るという感じは非常に多いんじゃないか。私のところにも、地価は下って大変だけれども、固定資産税ばかりが上がる。これは何とかしてもらわなきゃおかしいじゃないか、ちょっと税の仕組みそのものがおかしいんじゃないか、こういうことが言われているわけございまして、それはどういうことなのか。こういう面の配慮というのはなされなかったのか。したがいまして、こういう観点から、このような増加が出たわけでございますけれども、この点についてお伺いしたい。

それから、もう一つは都市計画税でございますけれども、都市計画税はもう御案内のように、これは各市町村の選択によって、館山市はその選択によって、市域全部を一丸として課税しているわけでございますけれども、これは千葉県下でもこの全市、全地区指定というのは珍しいわけでございますけれども、このように地価が下って、法的に固定資産税そのものは制度からいって下げることができない、こういうことであれば、都市計画税の減額または廃止、これは市独自でできるわけでございますから、ここでもって値上

がり分の調整をしていくというようなことをしなければ、市民の感じといたしまして、給料が上がれば待たなれどもって税金持っていられる。そして、固定資産の方は下がったって何もしてくれない。こういうことが非常に納税に対する不信、特に市税に対する不信というものを招くんじゃないかと思うわけでございますけれども、ここでもって都市計画税において調整すれば――市長の決断においてできるわけでございますから、この点が検討されたかされないか、お伺いをしたいと思います。

第2番目には、26ページでございますけれども、ここのゴルフ場利用税の交付でございますけれども、このゴルフ場の利用税の課税というんですか、これはどういう形でなされておるのかお伺いしたいわけでございます。額的には去年と同じでございますけれども、去年あたりから大分ゴルフ場の利用客が減っておるということを聞いております。館山におきますゴルフ場も、一時期から比べると昨年は減っておる。ことしはかなり減るような状況であるので、何とか利用してもらえないか、そういうお客を紹介してもらえないかということでもって、私は両方の支配人もよく知っておりますので、そういうことを言われて、最近非常に厳しくなっているような状況でございます。こういう中で、他の項目等については若干減額というのがあるわけでございますけれども、ここが前年どおり、また平成3年度の予算と同じようなものが見込めるという計算はどういう形で出てきたのか、その点について少しわかりやすい形でもって御説明をいただきたいと思います。

それから、3番目に29ページ、ここの教育使用料の中で、第2節の婦人会館使用料、これが2万5,000円、それから北条地区学習等供用施設使用料が15万1,000円、豊津地区学習等供用施設使用料が1,000円、こういうことでございまして、特に豊津地区について1,000円というのは、ほとんどこうした有料利用者がゼロというふうに思われるわけでございまして、婦人会館も2万5,000円の収入見込みということは非常に少ないわけでございますけれども、これは婦人会館を今度変えるということの措置だろうと思うわけでございますけれども、この利用状況が昨年、一昨年と比べてどういう状況だったのか。そして、こういう数字、特に豊津の使用料がほとんど存目というふ

うになっているのはどうしたことか。婦人会館についてはそういう状況がありますのでわかるわけでございますけれども、これについてひとつ御説明をいただきたいと思います。

それから、歳出に移りまして、62ページでございます。12目諸費でございますけれども、ここの報酬、国際交流員報酬というのがあるわけでございますけれども、現在市長公室に勤務いたしまして非常に成果を上げているわけでございます。たまたまこの職員がベリンハム市から来ているということでもって、その成果というのは姉妹都市間の交流、理解ということでもって、目的以上の成果を上げているんじゃないかと高く評価しているわけでございますけれども、この方の任期はいつになるのか。そして、彼女の任期以降はどういうふうになっておるのか。その面は予算上に組まれておるのか。去年当初予算になくて、彼女は途中から補正予算で入ってきたわけでございますので、比較対象がわかりませんので、その点について。彼女がやめた以降はどうなるのか。そして、その場合に、今度はベリンハム市じゃない他の国、またはアメリカでも他の地域から来た場合に、今までのように姉妹都市交流という形が十分機能を果たせるかどうかという点について若干の危惧の念もあるわけでございますけれども、こうした点についての見通しなり見解はどのようにされておるのか教えていただきたいと思います。

それから、この9節の旅費、特別旅費が組まれているわけございまして、これは市の職員がベリンハムに派遣、交流ということでございますけれども、この場合に――経費的に非常に少ないわけでございます。その内容について今までこの議場で討議したことございませんので伺いたいんですけれども、交換ということですから、ベリンハム市の方からは何人ぐらいがいつごろどういう形で来るのか、そして館山市は派遣される人は何名で、そして期間はどのぐらいか、その点についてお伺いしたい。この交換協定なり、また交換のメモなり、そういうものはあるのか、そこら辺についてひとつ教えていただきたいと思います。

参加された方――全部じゃありませんけれども、館山市の場合には、旅費と向こうの滞在費は支給してもらえるんだけれども、自己負担が相当かかる

のもって、希望者が少ないということを聞いておるわけでございますけれども、これは非常に残念なことでございます。私はことし行政視察でもって別府市へ行しまして、別府市では毎年姉妹都市へ1年間の留学でもって市の職員2名を派遣している。希望者が非常に多くて、その選考に非常に苦慮している、こういうことを言われまして、ああそうですか。館山市の場合の状況を言ったら、館山市なぜですかというようなことを言われまして、個人的負担、その他のそういう問題等もあるようです、こういうことを言ったら、うちの方も大した負担はしていないんだけど、個人負担云々という苦情はまだ出ていません、こういうことを言われていました。同時に、そのときに話し合いの中で出てきたのは、一月か二月では、行って、こんにちは、顔を合わせて、それで帰ってくるということでもって、向こうの市の実態なり内容を理解するというのには最低1年は必要じゃないか。別府市の場合、行ってきた職員はほとんど1年じゃ足りない、2年ぐらいにしてもらいたい、こういうことで帰ってくるという状況等、かなりこころに交流の――現状の交流について少し検討を加えて、もう少し実効のある形の中へと改革するなりしていかなければならないんじゃないか、こういうふうに思うわけでございますけれども、この点についての検討なり、そういうものについてはどのようになされておるのか、お伺いをしたいと思うわけでございます。

次に、63ページ、ここの19節、スポーツ交流事業補助金というのが、69万1,000円というのがあるわけでございます。なぜここの総務費の中にこのスポーツ交流事業費が含まれるのか。この点については、この説明書の方に石和町との文化、スポーツ交流ということで、その中でやろうということだからだと思うわけでございますけれども、その点についてどういう状況であったのか聞きたい。

そして、ここでもって69万1,000円という端数がどういうふうにして出たのか。したがいまして、このスポーツ交流というのはどういうスポーツをどういう形でやって、そして普通これは万単位で、切り捨て、切り上げになるんですけれども、1,000円までの端数が出るというのは、どういう計算方法でこういうものが出てきたのかちょっと理解に苦しむものですから、この点

について、何かそういう根拠があったらと思うわけですが、どうしても、教えていただきたいと思ひます。

それから、122ページに移ります。122ページの真ん中辺で、15節工事請負費、これは道路改良・舗装工事請負費でございます。これが5億こし計上されたわけでございます。この点については、非常に口はばったいようで、市長には申しわけないんですけれども、庄司市長が就任されてから毎年減少しているんです。平成3年度は5億9,550万、昨年の平成4年度は5億3,790万、本年度の当初予算が5億ぴったり、こういう状況になっているわけでございます。これはどうしてこのように5億になったのか、5億でもってどの程度の要望にこたえられるのか、その点についてお伺ひしたい。

2番目に、市民の要求、また各種アンケートにおいて、館山市に対する要望の一番多いのは総合病院をつくってもらいたい、2番目には道路、下水を整備してもらいたいというのが圧倒的に多いわけでございます。私も市議会議員が毎年予算要求している中においても、道路、側溝の補修整備がかなり要望されております。私も幾つかしておりますけれども、私はかなりひどいところだからすぐにやってもらいたいというような道路も3～4申し込んであるんですけれども、ほかにももっと悪いところはあるのもって、幾ら辻田議員の申し出であってもすぐには、来年には無理だ、再来年ぐらいから先へいかなきゃいけない、こういうことを言われると、それは当然であろうかと思う。私が要望しているのは、すぐにもやってもらわなきゃいけないひどい状況が、まだ悪いのがあるから、来年というわけにはいきません、こういうことを受けると、これは館山のこの道路行政どうなっているのかということになって、そういう中でもって市長が年々予算を減らしてきているということがわからない。かつて本間さんが市長をやっているときに、こういう状況が出てきたときに、本間さんは倍額ぐらいの予算を計上して、そして起債をとって、徹底的に道路を3カ年か4カ年でやるということでもって、集中的にやったことを覚えております。今そういう状況に来ているんじゃないかと思うんですけれども、この予算でいくと、私の出している要望も3年か4年先になっちゃうと、次の改選以降になるからちょっと不満になるわけで

ございますけれども、これは本当に笑い事じゃなくて、議会の中でも同僚議員からもいろいろこの舗装、側溝については要望が出ているわけですから、そういう面について真剣に受けとめられたのかどうか、疑問になるような感がしてならないんです。この点について、そういう観点から私はひとつ御説明をいただきたい。

それから、123ページの橋梁費、15節で、これは通告してありましたけれども、永井議員が十分質疑をいたしましたので、これは通告から外していきたいと思います。

131ページでございますけれども、ここの真ん中辺にある22節でございます。補償金、地上物件等補償費でございます。これについてはこの予算説明資料の18ページの下段に出ているわけでございますけれども、地上物件等の補償金、仮換地指定に伴う移転補償が27件、使用収益停止に対する補償が14件、ガス・水道管等の補償ということでもって、件数が書いてないわけでございますけれども、ここでもってお伺いしたいのは、まず第1に仮換地指定に伴うところの移転補償。今回27件行われるそうでございますけれども、この27件は全体の移転を予定するものに対して何%ぐらいの割合になるのか、そして今までに仮換地をしてきたところと合わせて、今年度の予算でもって全体の何%ぐらいが完了するのか、この点について教えていただきたい。

2番目には、使用収益停止に対する補償14件ありますけれども、これはどういう内容か私もよくわかりませんので、ひとつ教えていただきたいと思います。14件というのはどういう収益に関するものが停止されてこういうものが出てくるのか、この2点について教えていただきたいと思います。

それから、141ページの13節委託料、この中にパーソナルコンピュータ保守委託料というのがございます。それと、145ページの上段の方に同じく中学校のパーソナルコンピュータ保守委託料というのがあります。したがって、これ一括しまして、小中学校におきますところのパーソナルコンピュータの設置状況はどうなっておるのか、まずお伺いをしたいわけでございます。できたら台数も教えていただきたい。

特に、2番目に、中学校の授業の中においてこの教育がなされておるのか。

なされておれば、どういう形でもって、どのぐらいの規模のコンピュータ教育というんですか、実施がなされておるのか。非常に進んだ学校においては、もう中学校を卒業すると、すぐこのコンピュータ、ワープロが打てるというところまでやっているということを伺っているところもあります。館山市もかつては有線放送を全国でもって第1号で設置して、ああいった放送教育の最先端をいった伝統的な教育方策があるし、庄司市長は教育出身者でございますので、このコンピュータ教育の重要性とその授業の現況について教えていただきたいと思うわけでございます。

その次に、152ページ、15節工事請負費でございますけれども、中央地区学習等供用施設建設工事請負費でございますけれども、これにつきましては本年度の予算におきますところの新しい政策の1つであるわけでございまして、そういった新しい政策としては評価したいと思うわけでございますけれども、3点についてひとつお答えを願います。

1つは、この学習等供用施設については北条と豊津にできております、2カ所。そして、私は北条も、豊津の設置のときにもこの議会に参加しておったんですけれども、そのときに順次各地域へ設置していく。公民館は全地域に配置したわけでございますけれども、これもそういうことだったんですけれども、今回北条地区に、2カ所ある中の北条地区にまたもう一つこれをつくる。中央という冠はつけるものの、2つここにできちゃうというと、そういった当初の基本路線、基本計画というものから——地域それぞれに今後やっていきたいという意向が崩れるような感があるわけでございますけれども、この点はどうであったのか。

それから、この場所に決定するについては、どういう機関で、どのような形でもって市民の意見、議会の意見、こういうものを聴取して決定されたのか、それとも政治的な判断でもって決定されたのか、そういう経過がございましたらひとつ教えていただきたい。

3番目に、あそこは婦人会館があったわけでございます。この婦人会館というのは、私設立のときにも当時の婦人会長から頼まれまして、私青年団長をやっておりましたから、募金にも相当参加いたしまして、落成式にも参加

させてもらいました。市の方からは補助金も出ましたけれども、かなりの部分が婦人会1人1人の募金を基盤にして建てられた伝統ある建物でございます。当時としては非常に先進的な婦人会館でもって、全国からも非常に評価されていた歴史があるわけでございますけれども、この婦人会館がなくなるということについては、私は非常に問題があるんじゃないか。確かに婦人会活動は後退しておるというけれども、婦人会館をなくすことについてもう少し論議が必要じゃなかったか。議会においてもこの点について論議してもらいたかったし、私もそれに対して、そういった経過もありますので、婦人会館の存続その他についてはやはりもう少し意見を申し述べたかった。

もう一つは、これは市長選挙のときにも市長さんに対して要望があったと思うんですけども、私のところへも来ましたが、福祉会館をつくるに、場所その他がなければ、婦人会館がもう古くなったから、あそこにでもつくってもらえませんかというようなことでもって、他の候補の人についてもお願いしていましたけれども、どうでしょうかというような意見等もありました。こういうところでいきますと、やっぱり福祉団体においてもあそこはねらっていたという感じがするわけでございますけれども、町内会長連合会の方からあそこを何か新しく建てかえてもらいたいという申し入れはあったようでございますけれども、そういったことでもって、あそこは婦人会館を外した場合にでも、そういったいろんな福祉団体とか、いろんなそういった要望があったんです。そういう調整というものがなされないまま、見切り発車の感があるように思われるんですけども、この点についてはどのように受けとめられているのか、お答えを願いたいと思います。

それから、153ページになります。これは一般会計の方では最後になりますけれども、一番下段の公民館活動の中の8節報償費、生涯学習講座の講師謝礼と公民館行事の賞品代、これについて伺います。

非常にこの学習活動の成果はあるようでございまして、参加人員もその内容も非常に年々向上しているようでございます。そこで、過日の土曜、日曜、私もそのフェスティバルというのを見に行きまして、いろんな方からいろんな意見等も聞きまして、非常に立派に育ってきたなということで評価したわ

けでございますけれども、その学習内容、それから参加人員、そしてほとんどあそこに出ていた人は年寄りの——年寄りかわかりませんが、定年退職した形でもって、ここへ出てくることによって非常に生きがいを感じるという方が非常に多くて、若い家庭の主婦等もありましたけれども、これらの方は逆に、子供が育って暇になりましたから出てくる機会がありまして、念願のこういう趣味を生かせて非常にいい、こういうことであって、そういった層がやや高齢者というところに偏っているんじゃないかというふうに思いましたけれども、そこら辺は、大まかに言ってその層はどういう層が重点的で、今後どういうところにおいてこれを強化していくかという方針がございましたら教えてもらいたい。

それから、ここでもって、残念なことに474万9,000円という予算でございますけれども、9,000円という端数がやはりここでもってどうして出てきたか。去年から比べて9,000円のアップなんです。私はもっと、90万ぐらいのアップがあってもいいんじゃないかというふうに思ったんですけれども、9,000円という端数のアップは、どういうわけでこういう端数のアップが出てきたのか。そういう面、非常にシビアな予算編成だということが言えるかもわかりませんが、ちょっと何かそれは行き過ぎのような感じがするんですけれども、どうしてこういう端数が出てくるのか。もうちょっとそこら辺については、大きくあの実績等を見ていくと、ふえてもいいようなんですけれども、9,000円でもってとどめたということについてちょっとお伺いしたい。

逆に私は、その下の公民館の行事賞品代、これがふえている。10万円ふえているわけです。この公民館の行事についてはいろいろとそれなりのいわれがあると思うんですけれども、スポーツ等について、公民館の行事だといった賞品が出るんだけれども、ほかのスポーツ少年団とか体育協会のそういった競技については大した賞品も出ない。かなり差がつけられるというようなことで、教育的観点で行われる公民館活動のそういったものが賞品主義に走ることがいいかどうかという点については論議もありました。しかし、賞品が出ないより賞品が出た方が活発になるから、それの方がいいんだ、こういう子供もおるわけでございますから、あながちどうこうというふうに言

えませんが、今回若干それらがアップした状況から見て、この賞品代というのはどういう内容のどういうものに対して行われておるのか。そして、このように10万円 — 片一方は 9,000円でしたけれども、増加があったわけでございますから、この際その内容について教えていただきたいと思います。

この一般会計については以上で終わります、あと1点、特別会計について1点だけ御質問します。

236ページ、ここの第2項の1目事業収入、これが今年度35万 5,000円、それからその一番下の欄に雑入として33万 5,000円、これは売店の売り上げでございますけれども、この予算はどのような形で、どのような方法でもって予算編成されたのか、その点についてお伺いをいたしたいと思います。

それから、2番目には、私はこれまでの予算書を見てまいりますと、平成3年度の決算は35万 9,000円であったのに対しまして、予算案は30万 1,000円であったわけでございます。それから、雑入の方は平成3年度の決算が41万 2,000円であったのが4年度予算では35万 1,000円で計上されておったわけでございます。ことしの、平成4年度の決算は出ておらないからわからないんですけれども、他の国民宿舎鳩山荘の収入が — 宿泊料、さらには売店の売上額もそれぞれ減っているわけでございます。これは人員が少ないというふうに見ているわけでございますけれども、ユースの場合もそういう状況があるんじゃないかということにかかわらず、この場合には若干ふえておる。ふえておるということはいいことでございますけれども、ユースだけは特別なそういうものがあったのかどうなのか、この点についてお伺いをいたしたい。特に、鳩山荘との関連について — 鳩山荘は予算も減っておる。そういう中で、ユースだけは今度逆にふえているということ。これはおとこの予算から、決算から見ていってもかなりのふえ方になっているわけでございますけれども、何かそういうものがあったのかどうなのか。そして、ユースホステルは非常に事業収入が35万ということでもって低いんでございますけれども、何人ぐらいの人が利用しているのか、その傾向についてあわせて把握したいと思いますので、教えていただきたいと思います。

以上、御質問申し上げます。よろしくお願いいたします。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの辻田議員の御質問にお答えいたします。

まず、歳入についての大きな第1、法人市民税減収の主な理由は何かとの御質問でございますが、これは景気低迷により企業収益が減少しているためでございます。

次に、固定資産税及び都市計画税についての御質問でございますが、固定資産の評価につきましては、地方税法の規定によりまして、3年に一度評価額の決定をすることになっておりまして、平成5年度の土地の評価額は平成3年度の評価によるものでございます。

なお、増収の主なものとしましては、新築家屋分に係るものでございます。

次に、大きな第2、ゴルフ場利用税交付金についての御質問でございますが、市内2カ所のゴルフ場の年間利用者数は減少傾向にありますが、平成4年4月から税率の改正がなされたことによりまして、利用者数の減少を補っております。平成5年度当初予算では今年度の交付額と同程度を見込んでおります。

次に、大きな第3、社会教育施設使用料につきましては教育長より答弁申し上げます。

次に、歳出についての大きな第1、国際交流員の職務内容と期間についての御質問でございますが、国際交流員は、館山市における国際交流事業の進展を図るため、外務省、文部省及び自治省による語学指導等を行う外国青年招致事業、これに基づきまして招致したものでございます。その職務内容は、地域における国際化の進展を図り、市民レベルでの交流事業を推進するため、市民ボランティアの育成、姉妹都市交流事業、国際交流講座の企画等に従事し、多くの成果を上げ、たくさんの方々から評価をいただいているところでございます。期間につきましては、1年ごとの契約更新となっております。

次に、ベリンハム市との職員交換事業の期間及び滞在経費についての御質問でございますが、滞在期間については約1カ月、滞在経費につきましては受け入れ側の負担という契約となっております。その他、積極的な御意見に

つきましては今後の検討材料とさせていただきます。

次に、スポーツ交流事業補助金についての御質問でございますが、山梨県石和町との姉妹都市提携が20周年を迎えるに当たりまして、その記念事業として、双方で協議し、計画したものでございます。具体的な内容につきましては、関係者との協議を進める中で今後決定してまいりたいと考えております。

次に、大きな第2の道路新設改良費の工事請負費についての御質問でございますが、私は市長就任以来、市民の生活に密着しました道路整備につきましては全力で取り組んでいるところでございます。この道路新設改良費の工事請負費が減少してきたことにつきましては、多額の費用を要しました市道8015号線及び市道1031号線等の道路改良工事が完了したことによるものでございまして、一方住民の方々から強い要望のございます道路排水整備工事等につきましては、年々増額を図り、整備を進めているところでございます。今後も生活環境の整備は重要な事項であると考えておりますので、早期の事業実施に努めてまいりたいと考えております。

次に、大きな第3は取り消されましたので、大きな第4、地上物件等の補償費についての問題でございますが、建物移転につきましては、平成5年度は14%の移転を予定しておりますので、平成5年度末で43%になります。残りは57%ということになるわけでございます。

大きな第5、パソコンに関します御質問、それから大きな第6、中央地区学習等供用施設建築に関する御質問、それから大きな第7、生涯学習講座、公民館行事等に関します御質問につきましては教育長より答弁申し上げます。

次に、大きな第8、ユースホステルの事業収入でございますが、平成3年度35万9,000円、平成4年度は28万5,000円を見込んでおります。この収入は昼食料及び自転車使用料でございますが、減少の理由といたしましては、外食の利便と自家用車による旅行者の増によるものでございます。

次に、雑入でございますが、平成3年度41万2,000円、平成4年度見込額は37万円でございます。平成3年度が特に多い理由といたしましては、ユースホステル30周年記念のテレフォンカードを販売したものでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 高橋教育長。

（教育長高橋博夫君登壇）

◎教育長（高橋博夫君） お答えいたします。

歳入についての大きな第3、婦人会館、北条地区学習等供用施設及び豊津地区学習等供用施設の使用料についての御質問でございますが、積算に当たっては、社会教育関係団体以外の有料団体の前年度利用実績を参考に見込んで計上いたしました。

次に、大きな第5、パーソナルコンピュータについての御質問でございますが、まず小中学校への導入状況でございますが、全校に教材作成及び成績処理用等として各1台、さらに各中学校に授業用として生徒用20台、教師用1台を設置しております。

次に、利用の現状についてでございますが、主に教材作成及び事務の効率化のために、中学校においては技術科、情報基礎や選択教科のパーソナルコンピュータ講座の授業で活用しており、その他の教科での個別学習用等にも活用されております。

次に、大きな第6、中央地区学習等供用施設建設工事についての御質問でございますが、生涯学習の拠点の1つである婦人会館は、町の中心に位置するため、多くの市民が利用しております。このため、利用団体や地域住民から環境を整備してほしいという強い要望が出ておりますので、防衛庁の補助を受けて、平成6年度完成を目途に建てかえようとするものでございます。

なお、施設の名称は補助事業の関係から変更せざるを得ませんが、利用に当たっては、従来からの婦人会館での活動にも支障のないよう十分配慮したいと考えております。

次に、大きな第7、生涯学習講座、公民館行事賞品についての御質問でございますが、まず生涯学習講座の内容につきましては、平成4年度では、中央公民館において少年教室5講座、成人教室10講座、勤労青少年ホーム事業6講座を開設しております。また、このほか各小学校ごとに家庭教育学級、幼稚園の父母を対象に幼母学級を実施しております。さらに、地区公民館11

館におきましては、地域の特殊性を生かし、155講座、延べ362回を開設しております。

公民館行事賞品につきましては、主として地域住民の親善、交流事業に対し、参加賞を交付しております。

以上でございます。

◎議長（福原 勲君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 私は通告の期間が — きのうして、途中私午後から東京の方へ出かけた関係で、電話連絡でしたものですから、不十分な点もあったようでございますけれども、かなり重要な部分について答弁漏れがございますので、その点についてひとつお願いいたしたいと思います。

特にその中でもって、まず第1点は固定資産税の問題でございますけれども、ここでもって、評価については3年ごとの評価に基づいて、ことしは前年と同じ、ふえた分は新家屋、こういうことであったわけでございますけれども、今までの経過からいって、家屋等は年々実際価格というのはかなり低下していくわけでございますけれども、こうした面について、3年ごとにやはり値下がりするということはあるのか。私自身、また周辺のごく親しい人から聞いて、固定資産税がうちは古くなり、壊れてきても安くなったということは聞いたことございませんので、大体その値上がりだけはちゃんとしていく、逆比例的にいくという状況があるんですけれども、これはどういうことでこういうふうになるのか、その点が1点。

今回都市計画税について、やはりこれは館山市の選択でございますから、固定資産税がこういうような形でもって、地価が下がったにもかかわらずこういう状況のときについては、やはりこの都市計画税の — 3%ですか、あれしているわけでございまして、これは安房郡の中でも取っているところは館山だけじゃないですか。鴨川も今度は廃止したんじゃないかと思うんですけれども、県下でも非常に少なくなっている。これはもうあくまでも市長の裁量でもってできることですから、自治省その他についてどうこうということないわけでございますから、こちら辺でもって、こういう今日のような状況のときにはやはり見直しをして、市民の税に対する気持ちというもの

をやはりやわらげるというんですか、受けとめる。これが本当に細かい、温かい市政だと思います。こういう点については、こういうやはり小回りのきくような行政運営、予算執行というものをしてもらわないと、それは当事者になれば金を取れる方がいいということになるかも知れません。しかし、納める方にしてみれば大変なことであるわけございまして、そこら辺について、この都市計画税の問題についてはどのように配慮されたのか、検討されたのかされないのか、こういう点について御質問したんですけれども、御答弁ございませんので、これお願いいたします。

それから、2番目には国際交流員の――1年の任期はわかっているんですけれども、今いる職員が何月に切れるのか。去年の中途からだったと思いますし、その後半なり幾らかの期間はいなくなると思うんですけれども、またことし1年間ということだと、来年の3月まではいないはずでございますから、その場合どうかということをお聞きしておるわけございまして、この点の任期とその後の対応はどうなっておるのか、この点について答弁漏れになっておりますので、ひとつ御答弁をお願いしたい。

市の職員のものについてはできるだけやっていきたいということでございますけれども、1カ月というのはやっぱり確かに私は行って帰ってくる程度でもって、本当に向こうの行政をのみ込む云々ということは難しいというふうに思います。そういう面では、やはりここら辺は、検討するというところでございますから、ひとつお願いをいたしたい。

3番目に、道路改良については、市長の意思表示は非常に情熱のあるものでもって歓迎するんですけれども、内容的にはやっぱりちょっとこれは逆という結果じゃないかと思えます。それはいろんな大型の市道の改修ないし新設が終わったからということでございますけれども、これらの種の問題については本来ふえていかなきゃいけないわけでございます。物価も上がっているわけでございますから、その総枠として、そういう大型がなければ細かいところに集中できる、そしてさらにふやす、こういうことだろうというふうに思うわけでございますけれども、その点についてこの中ではむしろ後退しているわけでございます。これらについては余り詰めてもあれですけれども、

要するにこれ予算的にこうなっているのか。私は事業的に見ていないと思うんですけども、事業量と市民の要望からいけば、もっとピッチを早くしてもらわないといけないんで、かなりおくられていますから、現状は、その面について、予算的にできないのか、それとも市の職員の数が少ないのもってこのぐらいしか対応できないのか、どちらなのか、この点についてひとつ明快な御答弁をお願いいたしたいと思います。

それから、次にパソコンの問題でございますけれども、中学校20台では、教育長非常に熱弁を振るっておりますけれども、教育の中の成果というのはちょっと無理じゃないか。学校の業務その他については、小学校等は機能を発しておりますけれども、教育効果を上げなきゃいけない。かつてもう15～16年前ですか、北条小学校では英語教育について、通信ですか、そういったシステムを、放送システムを入れて、個人個人でマンツーマンの教育をするなんて、小学校教育の中でやるというようなことで、大分機械化したこともあるわけでございます。館山市の教育というのは常に千葉県教育界では先進的な、時代の先取りをした、そして科学技術を導入した教育がなされているという伝統があるわけでございますから、我々といしましては全面的にそういう面でやっていく。教育者の庄司さんが市長になったら急に教育問題が遠慮して後退したというんじゃ、これは特色が失われるわけでございまして、むしろそういう面ではきめ細かい特色のある——やっぱり館山はほかに——産業等みすばらしいわけでございますから、教育ぐらいはやっぱりずば抜けた都市になってもらいたいというふうに思っているわけでございまして、これは自分の力でできるわけですから。観光客は呼ばなきゃいけない、相手がありますけれども、これだけは自分でできることですから、ひとつこの点については、この20台ではちょっと教育効果までは無理だと思うんですけども、今後これらについてどのように考えているのか、再度お伺いしたいわけでございます。

それから、中央地区学習等供用施設でございますけれども、1つは補助金の関係ということでございますけれども、補助金は婦人会館の建て直しにしても何にしても、福祉センターつくってもあるわけでございます。特に補助

金の関係で言えば、私がざっと計算したところによりますと、防衛庁の補助金よりも福祉センターによるところの補助金の額の方が多いように伺っております。ですから、補助金の云々によってどうこうという問題はない。補助金の効率がいいというんだったら、福祉センターをつくれば、今国の政策、国の補助金等相当のものがおりるわけでございますから、防衛庁を上回ると思うわけでございます。これは理由にならない。婦人会館をつぶしたという社会的な意義。館山は文化都市でございますから、婦人会館のない都市というのはやっぱりちょっとさみしい感じがすると思います。私なんか市を訪問して、婦人会館があり、青年会館があり、そういった文化施設、音楽ホールがありということだと、さすがにすごいなという感じがしますけれども、館山市から婦人会館がなくなったということになると、何か館山市の1つの柱が消えたという感じがするわけでございます。この点に対してはその供用施設の中でもって代行していくということですが、代行は私はなかなか豊津の運用量からいっても無理だと思うし、この点については、婦人会館の廃止についてはどうだったのか。

それからもう一つは、社会教育団体が使っているから使用料が少ないということですから、社会教育団体がどのぐらいの数で利用しているのか、ちょっと数字を示していただきたい。わかりましたらお願いしたい。

それから、8番目のユースホステルの事業収入と雑収入でございますけれども、答弁にはちょっとかけ離れているんじゃないか。答弁のための答弁。実際的には減っているわけですから、国民宿舎の方が減っておって、こっちがふえるという条件はないわけございまして、そこら辺はやはり余りにも額が低過ぎるのもってやっているというふうに思われるんですけれども、それはそれでいいと思うんですけれども、やはり毎年毎年前年度の実績に基づいてやるんだったら、実績に基づくようにしたらいいんじゃないか。3年から4年、4年から5年の実績主義、そういうものは見受けられないわけございまして、今回は前年度対比でもって云々というだけのことであって、そういう予算の組み方というのは財政部門においてはちょっと手抜きという感じがするわけございまして、そういうことはやはり絶対なく、細かく正

確に財政運営ですからやってもらいたい。予算審議ですからこの点を要望しまして、この点についてひとつ御見解を聞かせていただきたい。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（斉藤賢司君） 建物の評価額についての御質問でございますけれども、建物の評価につきましても3年ごとに評価基準が改定されておるところでございます。この評点によりまして、再建築評点数により再評価し、経年減点の補正をいたしまして、前年度を上回る場合は据え置き、下回る場合は引き下げるということで税法上規定されております。それに従いまして家屋については評価しているところでございます。

続きまして、都市計画税についての御質問ですが、都市計画税は都市計画事業に充てるための目的税でございます。本市ではいろいろな都市計画事業を推進しておるところでございますので、貴重な財源として活用させていただいているところでございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（永野 修君） 国際交流員の期間についての御質問でございますが、これは国の3省で行っている語学指導等を行う外国青年招致事業の中の勤務条件の中で期間は1年とされておりまして、7月22日から翌年の7月21日、こういうことになっております。そのかわり、1年となっているわけでございますが、受け入れ側とその国際交流員との間で合意ができればさらに更新ができる、3年間に限って更新ができる、こういうことになっております。したがって、私どもとしては更新を希望しておりますけれども、さらに更新を希望しない場合におきましても、新たに国際交流員の配置の申請を行いたい、こういうことで予算を計上してあるわけでございます。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 道路改良事業の5億の話でございますけれども、これについては現在の財政事情からいってこれが目いっぱいの数字でございます。と申しますのは、この中の、地域の要望の中の道路排水についてちょ

っと読みます。平成元年度から2億900万、2億2,200万、2億7,800万、3億3,100万、平成5年度が3億4,100万と増額しております。確かに地域の住民からの要望はまだたくさんありますけれども、これについて、今の財政事情からいって、この5億は適当かと思います。辻田議員がおっしゃるように、人的なものをおっしゃっておりますけれども、到底市の職員だけではカバーできません。それで、現在は設計委託を大いに取り入れまして、早期発注に心がけておるところでございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 高橋教育長。

◎教育長（高橋博夫君） 2点についてお答え申し上げます。

パソコンの利用状況でございますけれども、議員の方から少ないのではないかと御指摘をいただいたわけでございますけれども、現在各中学校、小学校とも基本的な数でもって、年度計画でもって充実をしているところでございます。さらにその改良等を加えながら使用をしていくということをして現在実施しております。

なお、今後の充実でございますけれども、それぞれの使用頻度等によりまして、さらに効率化が求められるというならば、また考慮をしなければならないのではないかと考えております。

また、特色ある館山市の教育ということで、ありがたいお話を伺ったわけでございますけれども、現在でも文部省等に館山市におきましては小中学校とも認められている学校があり、参観等で最近は多くのところが来ているような状況でございます。

次に、中央地区学習等供用施設の補助金関係に絡むものでございますけれども、現在この婦人会館の名称等につきまして、どうしても補助金の関係で名称を変えることが余儀なくされておりますけれども、将来にわたりましては、この点につきましては、皆様方のお話等によりまして愛称を求めて、それで親しみやすいものとしてそれを利用するというようなことも考えておるところでございます。そして、現在これを生涯学習の立場でお使いになっている方々が大多数でございます。そんな関係でもって、今回こういうような

方法でもって補助金をいただきながら建設を進めているという状況でございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） ユースホステルの事業収入の御質問についてお答えいたします。

平成5年度予算につきましては、平成3年度の決算の数字、その前後の数字等を勘案して積算をいたしたわけでございますけれども、御指摘のありましたように、積算につきましては十分今後とも留意してまいりたい、このように考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 以上で26番議員辻田 実君の質疑を終わります。

午前の会議はこれにて休憩とし、午後1時再開いたします。

午前 11時56分 休憩

午後 1時03分 再開

◎議長（福原 勤君） 午後の出席議員数25名、休憩前に引き続き会議を開きます。

7番議員鈴木順子君。御登壇願います。

（7番議員鈴木順子君登壇）

◎7番（鈴木順子君） 多分最後の発言者、質問者だと思います。簡潔に進めたいと思いますので、しばらく御協力のほどをお願いします。

私は新年度の予算案について、通告をしてございます議案書の第1号より6点につきまして御質問申し上げます。御質問は議案書に沿ってページをお示しいたしますので、よろしく願いを申し上げます。

歳出でございます。まず第1点目ですけれども、80ページの民生費、1目13節の委託料ですが、老人保健福祉計画作成委託料として500万円が計上されております。この件につきましては一般質問でも御質問申し上げましたが、来年度には今集計中である高齢者ニーズ調査がいよいよ作成委員会や懇談会において分析、審議に入るわけですが、老人保健福祉計画を作成する

に当たって、委託をするということの予算がここに計上されているということなんですけれども、全国的に現在さまざまな形でこの計画の作成作業が進められていると思われますが、自治体によっては現状調査作業そのものから計画作成まで一括をして委託をするというところもあると聞いております。

そこでお尋ねをいたしますが、現在この業務を委託をするとしている県内の市町村の状況をお聞かせを願いたいと思います。また、館山市で委託をしようとしているところは検討されているのかどうなのか。また、ニーズ調査では館山独特の要望欄スペースを設けた方法で対応したわけですが、現時点で結構でございますから、館山としての何か特徴のようなものを計画の中に織り込んでいこうというようなことが検討されていますでしょうか、お伺いをいたします。

次に、2点目でございます。123ページ、土木費の4目15節工事請負費、橋梁整備工事請負費でございますが、これは先ほど永井議員の方から御質問がございまして、重複をいたすことは承知しておりますが、私の区内の相生橋のかけかえに関する事業でございますので、要望も含めまして、あわせてまた御質問申し上げます。

御承知のように、相生橋付近の交通量、本当に年々多くなってきている状況であり、そういった中で、橋が狭いために、通学路であることから考えても危険であるとの指摘をされてきておったところ、利用する人たちの念願がかなって現在工事中であるということなんですけれども、私どもも非常に驚いているのが現在の相生橋近辺の交通量でございます。日中も多少ございますが、特に朝晩のラッシュ時の館山病院わきの道路、また下町交差点、汐溜橋交差点、紅屋交差点、このほとんどが相生橋を通れないための車が迂回をするために大変な交通量であります。

そこでお尋ねいたしますが、予定されています工期終了、先ほど8月末とお聞きをしておりますが、また早めたいと思っているとの答弁がありましたが見通しとしてはいかがでしょうか、お尋ねをいたします。

次に、128ページ、土木費の4目22節、補償金、ここに補償金、移転補償費として計上されておりますが、この問題の移転物件とは城山公園山頂にご

ざいます売店のことなのかどうなのかを伺います。また、この売店はいつごろからここにあったものなのか、また売店の面積としてはいかほどのものなのか、あわせてお伺いをいたします。

次に、4点目、150ページ、1目8節報償費でございます。休業土曜日指導員謝礼としてここに20万7,000円が計上されておりますが、第2土曜日が休日となって約半年がたちましたが、現在の市内の学校などの状況はいかがでしょうか、また指導員の配置体制はどのようになっていますでしょうか、現状をお伺いをいたします。

次に、5点目でございます。152ページ、教育費、1目15節工事請負費ですが、これにつきましては先ほど辻田議員の方から御質問がございました同じ問題でございますが、少し詳しくお話を伺わせていただきたいと思います。

予算説明資料によりますと、財源としては国庫支出金、先ほど防衛庁補助金というような御答弁ございましたが、地方債、一般財源として、事業費としては8,709万2,000円となっておりますが、この施設、先ほどお話があったように婦人会館ということなのですが、御承知のように婦人会館は大変老朽化しており、改築をするということですので、若干お伺いをいたします。具体的に解体作業に入られるのはいつごろをお考えになられているのかお伺いします。また、改築をするに当たって、現在と同規模程度のものとお考えになっているのかどうなのか、あわせてお伺いをいたします。

次に、6点目でございますが、同じく152ページのただいまの項目の下からありますが、これは関連でございますので、一括して質問をします。工事請負費として文化財標柱設置工事、同じ項目で文化財表示板設置工事、16節の文化財説明板等製作用材料費、153ページの同じく19節、館山市文化財保護協会、同じく文化財保存整備事業、あわせてお聞きをしていきます。

文化財という問題については私も非常にわかりにくいところではございますが、この最初の文化財の標柱設置工事でございますが、これはどこの工事をなさるといふことの計上でございましょうか。その下の同じく文化財表示板も同じ質問でお答えをいただきたいと思います。それから、文化財説明板などのこれは製作用材料費としてございますが、これは修理をするためにか

かる材料費という認識でよろしいのかどうなのか、お伺いをいたします。また、最後の 153 ページの19節の文化財保護協会の補助金なのですが、15万、その下の保存整備事業については44万 7,000円という計上がされていますが、この文化財保護協会という会はどういう方たちで構成をされておりますでしょうか、お伺いをいたします。また、保存整備事業でございますが、文化財を保存するための修理費ではないかと思いますが、そうであれば、どういったものを修理なさるのか、対象のものは何なのか、お伺いをいたします。

以上でございますが、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの鈴木議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、老人保健福祉計画作成委託料についての御質問でございますが、館山市を含め、23市が委託の方向と伺っております。

次に、委託の内容につきましては、市民のニーズ調査の分析、基本構想の構築、計画原案のまとめ、計画書の印刷製本でございます。

なお、この計画は市が主体となって作成してまいりますが、専門的知識が必要となりますので、コンサルタントを活用してまいりたいと考えております。

次に、大きな第2、相生橋かけかえ事業についての御質問でございますが、先ほど永井議員の御質問にお答えしましたとおり、できるだけ早期完成に努める所存でございます。

次に、大きな第3、移転補償費についての御質問でございますが、城山公園の茶室わきにございます売店の移転補償費でございます。昭和43年に設置され、面積は約 105平方メートルでございます。

次に、大きな第4、休業土曜日指導員謝礼の問題、それから大きな第5、中央地区学習等供用施設工事請負費及び大きな第6、文化財標柱設置工事請負費等につきましては教育長より御答弁申し上げます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 高橋教育長。

(教育長高橋博夫君登壇)

◎教育長(高橋博夫君) お答えいたします。

大きな第4、休業土曜日における指導状況はどうかとの御質問でございますが、現在指導員を配置しているのは1校で、指導対象児童は4名でございます。

次に、大きな第5、中央地区学習等供用施設工事についての御質問でございますが、この事業は平成5年度及び6年度の2カ年で行うもので、工程につきましては、平成5年6月地質調査及び実施設計を委託、平成6年1月から躯体工事に着工し、平成6年半ばごろに完成する計画でございます。施設の内容につきましては、多目的用の集会室、和室、学習室、調理実習室等、幅広い各種事業に活用できる配慮をしたいと考えております。

次に、大きな第6、文化財標柱設置工事請負費等につきましては、関連がございますので、一括してお答えいたします。

館山市の指定文化財につきましては、計画的に標柱や表示板の設置を行い、その認識保存に努めているところでございます。平成5年度は、文化財標柱につきましては3カ所、文化財表示板につきましては1カ所の予定でございます。

次に、館山市文化財保護協会ですが、文化財への関心と理解を深め、歴史を正しく自覚することを目的に、昭和42年に結成された社会教育団体でございます。会員は308名で、毎年文化財の調査研究、会報の発行、文化財めぐり等を実施しております。

次に、文化財保存整備事業につきましては、那古寺にあります県指定文化財の續字法華経普門品の修理費でございます。

以上です。

◎議長(福原 勤君) 鈴木順子君。

◎7番(鈴木順子君) 再質問させていただきます。

まず、1点目の高齢者ニーズ調査なんですけれども、館山市独自の方法として要望欄を設けて調査をされたわけなんですけれども、この結果がどう計画の中に反映させていけるのかということが私は最大の課題ではないかなと

いうふうに思っています。計画作成に向けての現在方針が — お考えでも結構ですけれども、あればお聞かせを願いたいと思います。

次に、2点目なんですけれども、相生橋の件なんですけれども、先ほどの永井議員の質問の中で建設部長さんの方から答弁が大分されましたので、半分ほど省いていきたいというふうに思うんですけれども、ただ長須賀側のこととは承知をいたしました、あと青柳側の信号に向けての整備ですか、市道の整備、あそこは途中までおかげさまで側溝にふたをしていただいたりしまして、道幅が非常に広がって、通行に以前よりは支障を来すことなく通れているわけなんですけれども、この相生橋が完成後にその切れている部分、まだ整備が済んでいない部分についてはどういうふうに今後改良されていくのかどうなのか、見通しをお聞かせを願いたいと思います。

次に、城山の売店の件なんですけれども、昭和43年から開業していると聞いておりまして、私も思えば、城山も大変さま変わりをしてきているように私自身は思っていますが、今度はあの売店を移転させた跡地に、何をあそこにつくろう、また何に利用をしていこうとされているのかをお聞かせを願いたいと思います。

次に、休業土曜日の指導員の件なんですけれども、第2土曜日が休日となって約半年がたちまして、子供たちもそれぞれが休みの使い方といいたしましうか、過ごし方を — 上手に使って休んでいるような状況ではないかなというふうに認識をしておりますが、指導員の配置は今のまま引き続きこの同じ体制の中でやっていこうとなさっているのか。今聞きましたら、1校で4名ということでございますので、その辺のことを今後このまま続けていかれるのかどうなのか、お聞きを申し上げます。

それから、婦人会館の件なんですけれども、婦人会館は町の中心にありまして、場所的に自転車ですとか歩いて行ける距離にあるということで、特にお年を召した方にとっては非常に利用しやすい位置にあるわけで、大変貴重な施設のわけです。しかしながら、現在車社会でございますので、駐車場というのはつきものになるのかなというふうに思うんですが、あの会館を改築するに当たって、駐車スペースはどのようにお考えになっていらっしゃるの

かどうなのか、お伺いをいたしたいと思います。

また、辻田議員の答弁の折に補助金の問題が出ておりましたけれども、通常補助金をもらうというか、補助金を得るためには、何かしらの制約なり、何か利用目的が制約を受けるとか、そういった問題が出てきやしないかというところがちょっと心配なんですけれども、その辺のこともお伺いをしたいと思います。

あと、最後の文化財の問題なんですけれども、私は文化財については不勉強でありまして、大変苦手でございますが、市民からの要望もありますので、ぜひお伺いをしていきたいと思います。

この文化財について、一概には言えないわけなんですけれども、管理状況というんでしょうか、いろいろな文化財があるわけですから、館内に保存されているもの以外のもので結構でございますから、どういった管理状況にあるのか、現状をお聞かせ願いたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 今回行いました老人保健福祉計画のニーズ調査のいわゆる行政への要望事項、この欄の御意見の今後の反映ということでございますけれども、鈴木議員御指摘のとおり現在集計中でございます。そういうことでございますので、いろいろの御意見があらうかと思っておりますけれども、今後貴重な御意見として真剣に検討してまいりたいというふうに考えております。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） まず、市道 203号線でございますけれども、実はこの相生橋が平成5年の7月ないし8月にということでございます。そんな関係から、すぐといいますと1年じゅうという形になってしまいますので、こちらでは平成6年度計画したいと思っております。

それから、例の城山公園の移転補償の関係でございますけれども、実は鈴木議員さんのおっしゃるとおり、非常にすばらしい景観になってきたわけでございますけれども、私も過日の文化祭に行ったときに、この周りの庭園が、紅葉がすばらしくて、これが館山市かというような錯覚に陥ったわけでござ

いますけれども、1つ裏を見ますと、ごらんのとおり売店が非常にみすばらしいという中で、これを交渉いたしまして、取り壊し、景観上からも周囲に植栽をしながら、大体 250平米ぐらいの小さな場所でございますので、今後一番有効な使用方法を考えていきたいと思います。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 高橋教育長。

◎教育長（高橋博夫君） それでは、お答えいたします。

まず、土曜休日のことでございますけれども、これは本年度と同様に明年度も実施いたします。

それから、中央地区学習等供用施設のことでございますけれども、駐車についてでございますけれども、現在その周辺には18台の駐車場は正式に用意はいたすつもりでありますし、また周辺にも相当数の駐車が可能かと思われます。

それから、その利用でございますけれども、制約等は別にございません。ただ、今までやっております北条学区、豊津学区と同様な使用法であり、現在使われている人たちも同じに使っていただけるように考えております。

次に、文化財につきましてでございますけれども、その管理状況等でございますけれども、先ほど御説明申し上げましたとおりに、市内に文化財保護協会の方々がいらっしゃいますので、そういう方々が常に関心を持たれてその保守等をなされているとともに、私ども関係の担当者が巡視いたしましてその管理等に当たっております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） まず、老人保健福祉計画作成についてなんですけれども、今後の高齢化社会に向けて各自治体独自で計画を立てるということは、その地域の特性も含めて、住民の意見をよく聞いて計画を立てなさいという国の方針だというふうに思うんですけれども、計画の土台となる現状調査から既に委託をしてやっているという自治体もあるということをよく聞きますが、館山市はそれに反して住民の声を十分反映させてやっていこうという方

針のようですので、それは私もありがたく、評価をしていきたいというふうに思うんですけれども、関係者の方々には大変な御苦労だろうなという思いも一方にはあるわけですが、ただ余り先を急ぎますと、よいものが果たしてできるのかどうなのかということもございますので、十分今後検討を重ねてやっていただけますように要望をしておきたいと思います。

次に、相生橋の件なんですけれども、今御答弁ございまして、平成6年度にということの数字が出されたんですけれども、ただ一つ確認しておきたいのは、確かにあそこ近辺の交通網といいますか、館山—白浜バイパスであるとか、現在の青柳—大賀線ですか、それから県道であるとか、交通が今後あの近辺は大分開けてくるんじゃないかなというふうに思うんですけれども、先ほどの御答弁の中でそういうような答弁がございましたので、こういうものができますというふうな答弁がございましたので、平成6年にあの辺の整備をされるということであれば、こういう道路ができるからそこはしませんよということではないととっていいわけでございますね。6年に計画をされるということですので、ぜひ整備も早急にしていっていただきたいというふうに思います。これは要望として言っておきます。

次に、城山の売店の移転なんですけれども、本当に長い間——昭和43年ですか、城山の売店があそこに開かれましてから本当に長い間親しまれてきたわけで、子供たちはもちろんのこと、我々も本当にあの坂を上がって行って山の頂上に行って、あそこでまたほっとするという場でもあったわけです。市として城山公園全体をそういう中で今後どのように整備をしていこうというふうに考えていらっしゃるのか。例えば、先ほど部長さんの答弁の中に緑を植えてというような答弁がございましたけれども、ということは、あそこ近辺にまた新たに建物を建てるというようなことはお考えにはなっていないというふうに判断してよろしいのかどうなのか、1点お尋ねをしておきたいと思います。

次に、第2土曜日の休日の指導員の配置なんですけれども、開始当時に比べれば、大分過ごし方になれてきたのかというような認識をしているんですけれども、新年度になりますと、また新しい子供たちが、低学年の子供たち

がそういった中に対象として入ってくるのではないかなというふうに思うんですけれども、不安を持ちながらやっぱり働いていらっしゃるお母さん方にとっては、どういった対応をしてほしいと希望しているのか。例えば、父兄のこの件についての要望なり希望聴取などは行っておるのかどうなのか、お伺いをいたします。

次に、婦人会館の建設の件なんですけれども、今までの婦人会館は、利用しやすいということよりも、私は端的に言って、一番が何が利用しやすい理由かといえば、料金だと思うんです。非常にほかの施設と比べて料金が格安であるという状況があるわけで、そういったメリットと申しますか、そういった状況の中で今度改築をされるということであるわけなんですけれども、制約はないというような御答弁でございますので、ただこの利用料が今後上がっていくのか。それは年々の、時期時期の上がる範囲内であればよいのですが、それが例えば大幅に上がるというようなことではやっぱり何にもならないわけで、その辺のことはどうお考えになっていらっしゃるのかどうなのか。

また、制限がないということであれば、今までと同様に何でも利用できるというような判断でよろしいのではないかなと思うんで、これは本当にありがたいことだなというふうに思います。ただ、婦人会館という名前がなくなってしまうというのは非常にさみしい。何であそこに婦人会館として建てられたのかなという — 婦人会館の持っていた歴史がなくなってしまうのではないかなというような意味合いからも、もし内容的に変わらないのであれば、やっぱりその名前は残していただけないだろうかというふうに考えていますが、いかがでしょうか。

最後の文化財の関連事業として一括してやりますが、大体のところは承知いたしました。ただ文化財の管理についてなんですけれども、定期的に見回りはされているのでしょうか、その辺1点ちょっとお尋ねをいたします。住民の方から、例えば文化財の案内標識であるとか掲示板みたいなものが折れていたり壊れていたりという箇所を見るんで、これは一体どこの管轄なんだろうかなという意見もしょっちゅうございますので — 指摘を受けました。その辺の管理状況について、だれが行っていくのかもあわせてお伺い

をしていきます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 過去に整備計画を立てたんですけれども、この年度についてはちょっと資料がないからわかりませんが、この整備計画に基づいたものは一応終わっております。ただ、これから修繕的な小さなものについては、維持的なものはあろうかと思います。さらに、将来計画どうなんだということですが、これについても、ある意味においては観光施設的なものになってきた城山公園でございますので、慎重に、そして皆さんの意見を聞きながら、どのように対処したらいいかということを検討してまいりたいと思っております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 高橋教育長。

◎教育長（高橋博夫君） まず、土曜休日につきましては御質問でございますけれども、現在実施しておりますように4会場は確保するということでございますけれども、入学した子供たちのアンケート等につきましては、新たに小学校に入りました時点でもって、各学校でもってこれら説明等はなされると思いますし、また指導をいたしたいと思います。

次に、婦人会館のことについて、料金の問題等が出ておりますけれども、この使用についてはあくまでも3つの原則でもって、これは社会教育上——3つにつきましては御存じだと思いますが、営利、それから宗教、それから政治、その3点については困るけれども、それ以外のことにつきましては、やはり社会教育施設でございますので、制限というものは一応ございませんということでございます。

それから、名前についてのことでございますけれども、先ほど辻田議員にもお答え申し上げましたけれども、将来的にはこれはまた愛称等でもって呼ばせるようにしたらばどうだろうかということを考えておるところでございます。

それから、文化財の標柱並びに表示につきましては破損等につきましてで

すが、これはやはり野外に出ているものにつきましては、突風その他風雨によるところ、または長い間にはこれは腐り等がございます。それらにつきまして、巡回はしておりますも、急に壊れる場合もございますので、住民の方々等からの御指摘をいただきながら、私どもはすぐにそれらは修理をするというふうにいたしておりますので、市役所の方へどこでも、窓口でも、また — 実際には教育委員会でございますけれども、御指示いただければ行動するというようにしております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 以上で7番議員鈴木順子君の質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

予算審査特別委員会の設置・付託・委員の選任

◎議長（福原 勤君） お諮りいたします。

ただいま議題となっております議案第1号乃至議案第8号、平成5年度各会計予算につきましては、10人の委員をもって構成する予算審査特別委員会を設置し、これに付託の上審査することにいたしたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、決定いたしました。

重ねてお諮りいたします。ただいま設置されました予算審査特別委員会委員の選任については、委員会条例第8条第1項の規定により、

3番議員	島田 保君	5番議員	宮沢 治海君
6番議員	植木 馨君	9番議員	脇田 安保君
13番議員	榎本 春光君	19番議員	川名 正二君
20番議員	生稲 陞君	21番議員	神田 守隆君
23番議員	石井 昌治君	28番議員	飯田 義男君

以上10名を指名いたしたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、決定いたしました。

ただいま選任されました予算審査特別委員会委員の方々は、後ほどこの議場において正副委員長の互選を行いますので、御了承願います。

延 会 午後1時42分

◎議長（福原 勤君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思えます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

なお、明17日から23日まで委員会審査のため休会、次会は3月24日午後2時開会といたします。その議事は、議案第1号乃至議案第34号等にかかわる各委員会における審査の経過及び結果の報告、討論、採決といたします。

この際申し上げます。各議案等に対する討論通告の締め切りは3月24日午前9時でありますので、申し添えます。

◎本日の会議に付した事件

1 議案第1号乃至議案第8号

